

別紙様式第十五号

研究の名称「当院回復期病棟入院患者における転倒者の特徴」

1. 研究の対象

2016年から2019年までに当院回復期リハビリテーション病棟に入院歴のある患者様。

2. 研究目的・方法

当院の回復期リハビリテーション病棟では患者様の転倒転落事例の確認を行い、その都度転倒対策を行っています。しかし転倒対策を行っても再び転倒してしまう患者様をしばしばお見かけします。

先行研究においては転倒する方の特徴として、入棟時より運動・認知面で機能的自立度評価表(Functional Independence Measure 以下:FIM)の点数が低い方、認知機能が低下している方、脳血管疾患患者で運動機能が低い方、感覚障害・失語がある方、入院期間の長い患者様の転倒が多いと言われていました。しかしながら先行研究では対象者が少なく大規模に転倒した患者の特性を研究したものは多くありません。

そこで本研究では蓄積された過去の入院時の評価を活用し、対象者を増やすことで当院回復期リハビリテーション病棟入院中に転倒した方の特徴を入棟時の評価から明らかにしたいと考えております。

研究期間は2019年10月～2019年12月としました。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の項目を診療録から調査します。新たに患者様に評価は行いません。

- ・年齢 ・性別 ・疾患名・利き手 ・体重 ・身長
- ・脳血管疾患患者様の麻痺側および整形外科疾患患者様の患側
- ・Body Mass Index(以下: BMI) ・発症日 ・歩行形態 ・既往歴
- ・Brunnstrom recovery stage(以下: Brs) ・介護保険
- ・日常生活自立度 ・発症から入棟までの期間
- ・視覚障害, 感覚障害, 失調, 失行, 失語, 半側空間無視, 注意障害, 尿・便失禁の有無
- ・転倒時間帯 ・ヒヤリハットレベル ・転倒転落危険度 ・転倒場所
- ・認知症老人の日常生活自立度判定基準 ・環境設定ミス ・睡眠剤の有無
- ・介助、見守りの有無 ・転倒原因動作の自立度
- ・環境設定表の有無や表示の有無
- ・膝伸展筋力 ・重心動揺検査
- ・Fall Efficacy Scare(以下: FES) ・やる気スコア

- ・機能的自立度評価表(Functional Independence Measure 以下：FIM)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

医療法人社団主体会小山田記念温泉病院

リハビリテーションセンター 理学療法士 野呂 賢汰

〒511-1111

三重県四日市市山田町 5538-1

電話 059-328-1260

ファックス 050-328-3040

研究責任者：野呂 賢汰